

## 入る（その一）

私の父（二代教会長）の妹に豊能さんという方がおられ小坂小町（池田教会の旧住所が大  
阪府豊能郡池田町小坂前）といわれたほどの美人でした。縁あって金光教祖御生家の香取敏  
次氏と結婚されました。当時（大正時代末期）アメリカのロスアンゼルスに講社組織ができ  
ておりましたので、それを取りまとめるべくアメリカへ渡航され、ロスアンゼルス教会を開  
設されました。布教は順調に進み、美知加（女子）航（男子）の二人の子室にも恵まれたの  
ですが、不慣れな外国の土地でもあり、食物などの問題もあって豊能さんは、二人の稚児と  
愛する主人、敏次氏を残して若き身でもって亡くなりました。このことは池田教会にとりま  
して、このうえもなく悲しい出来事でありました。

この事件の数年前にも、これと同じようなことが起きていたのです。それと申しますのも、  
父の姉に静江さんという方がおられ、縁あって大阪の九条教会初代、藤島誠一氏の妻となり、  
女子（現、石清水教会長夫人）と男子（現、九条二代教会長）の二児を残して若くして亡く  
なっておられるのです。

そんなことで同じような事件が二度も重なったのことですから池田教会と致しましてもち

のうえもなく難儀の連続ということになり布教上にも、教会家庭の上にも多大な動揺が起きたことはいまでもないことだと思えます。

あたかもロスアンゼルス（ロサンゼルス）の豊能さんが亡くなられた昭和六年一月というときは、ちょうど私が母（雪子）の胎内に宿っていた時期（四月六日出生）であり、父母の苦しみや嘆きもろに私の胎教となっていたことは紛れもない事実であります。

母の後日談に、今度生まれてくる子供が女の子ならば（私の先に姉が生まれている）池田教会に見切りをつけて出ていこうと思ったのだそうですが、しかしその苦しみの中で生まれてきた子供が長男の私だったので、泣き泣き思い止まったのだと、私たち兄弟はよく母から聞かされたものです。

そのようなわけで私の心には父母の苦しみやら信心辛抱の心などが生まれながらに入っていると思うのであります。